



健康コラム

～シリーズ第1回目は、『肺の病気』についてお話しします～

肺の病気①

人間は生きていくために食物を食べますが、これがエネルギーとして体の中で使われるためには、酸素が必要で、そしてエネルギーを作った後には二酸化炭素ができます。ちょうど自動車がガソリンを使って走るときに酸素が必要で、二酸化炭素を排出するのと同じです。肺は空気を出し入れすることによって、空気中の酸素を血液中に取り込み、血液中の老廃物である二酸化炭素を排出する働きがあります。

★肺の病気①

★肺がん

肺がんは肺胞（肺の細胞）や気管・気管支などにがん細胞が発生することで発病します。日本人のがん死亡率（2005年）では、男性の1位、女性の2位が肺がんとなっています。主な原因は、発がん性物質の吸引によるものと考えられています。多くの場合、タバコに含まれているニコチンやタールが原因になっていると考えられます。喫煙している本人の他、その周りにいる家族も影響を受けると言われています。しかし、タバコを吸わない人も肺がんになる可能性はあります。

肺がんは自覚症状が少ないため早い時期に発見するのが難しい病気です。主な症状も、咳（せき）や痰（たん）などで、風邪と似ている症状のため、あまり気に止めない人が多いと思います。その他の症状としては血痰（けつたん）や胸の痛み、顔の腫れ、むくみなどがあります。



★肺の病気②

★肺結核

肺結核は、長い間「不治の病」として恐れられてきた感染症です。医学の進歩により、治せない病気ではなくなりましたが、現代日本での感染者は増加傾向にあると言われています。肺結核は、結核菌という細菌に感染することで発症する肺の病気です。結核菌は感染者のくしゃみや咳によって細菌が細かく飛び散り、空気感染する性質を持っています。結核菌を吸い込んだからと言って即発症するわけではありませんが、身体の免疫機能が低下した時に体内に侵入した細菌が猛威を振るい発症する

性質を持っています。

主な症状は、やはり風邪の症状に似ており、咳（せき）や痰（たん）・発熱、胸の痛みなどです。どれも結核だけに特徴的な症状でないのが判断を難しくします。

治療が困難になる多剤耐性肺結核の出現もあり、昔の病気で軽く考えられなくなっています。

定期検診で

自己管理

★胸部レントゲン検診

町では、平成21年度の胸部レントゲン検診を平成21年4月22日～25日までの4日間で行います。

保健センターの他、各地区集会所等を検診車が巡回します。今年度のレントゲン検診でも、肺がんの他、様々な疾患が見つかっています。

今年度（平成20年4月実施）受診された方、住民検診調査書で町での受診を希望された方には、受診票を送付致します。今年度受診されなかった方で希望される方は一宮町保健センターまでご連絡下さい。

※お問い合わせ先

・宮町保健センター

福祉健康課 健康係

☎40-11055